

日本一のトライアスロン大会へ

父の日でもあった6月21日、6回目となるサンポート高松トライアスロン2015～瀬戸内国際体育祭～（以下、「高トラ」と言います。）が盛大に開催されました。

このトライアスロンというスポーツは、かつては過酷で、特別に訓練された人だけの競技とされていました。しかし、短距離型が主流となり、オリンピックの正式種目となったことで、人気も急上昇。国内の愛好者も今では37万人を超えるまでになっているそうです。毎年全国各地で約290ものトライアスロン関連の大会が開催され、多くの人に親しまれるスポーツになりつつあります。

高トラは2010年に始まりました。きっかけは「高松で本格的なトライアスロン大会を開催したい。」という一人の女性の熱烈な思いと各方面への強力な働きかけでした。すぐに賛同の輪が広がり、警察の交通規制の許可も得て、短期間で開催にこぎつけることが出来ました。そして、4回目（2013年）からは、念願のバイクの中央通りの走行が可能となり、オリンピック・ディスタンス（総計51.5km）での開催となっています。

そのコース。スイムは観客が見下ろすすぐ下を瀬戸の多島美を背景に遊泳し、バイクは高松の中枢部、都心幹線道路を疾走し、ランは港の防波堤の上、赤灯台（せとるべ）を折り返して走り抜けます。高トラの魅力と売りは、何と言っても瀬戸の都・高松の都心部をメイン会場とするこのコースの立地と、ボランティアの充実した民間主体の円滑な運営です。これだけは、既に「日本一」とであると、日本トライアスロン連合の関係者からもお墨付きをいただいています。

今年のレース本番でもフィニッシュ・エリアでは、選手の家族、友人、知人が一緒になって走り出し、ゴールするような微笑ましいシーンが数多く見られました。さらにリレー種目に出場した企業チームも、応援合戦等で大いに盛り上がっていました。このような手作り感があり、アットホームな大会の雰囲気は、これからも大切にしたいと思います。その上で、よりレベルの高いレースを組み込み、総合評価として、「日本一のトライアスロン大会」であると言われるようにしたい、と関係者と話し、夢見ているところです。